



日本フランス語教育学会 2016年度秋季大会

Congrès d'automne 2016 de la SJDF

2016年10月16日(日)10:30 ~11:10 金沢大学角間キャンパス総合教育講義棟 Salle A3

仏検アトリエ2

Atelier DAPF 2

---

—フランス語の検定を中等教育の現場からとらえなおす—

---

司会 Modérateur :

中野茂 NAKANO Shigeru (早稲田大学高等学院 Lycée de l'Université Waseda)

登壇者 Animatrices :

菅沼浩子 SUGANUMA Hiroko (聖母被昇天学院中学高等学校 Collège et lycée de l'Assomption)

鷺頭弘子 WASHIZU Hiroko (カリタス女子中学・高等学校 Collège et lycée Caritas)

第2回仏検アトリエとして、フランス語の検定を中等教育の現場からとらえなおしてみる。高校の教育現場(学校、教員、生徒の立場)からみた仏検と DELF の相違点(準備や対策にどのような違いがあるか、生徒の反応など)、さらには二つの異なる試験が存在することから生じる困難や工夫、さらには利点などを扱う。とりわけ今回は、仏検と DELF の二つの検定を導入している、聖母被昇天学院中学高等学校とカリタス女子中学・高等学校の担当者に、現状と問題点、さらにはその可能性に焦点を絞って紹介してもらおう。

フランス・パリに本部をおく修道会を母体とする聖母被昇天学院では、創立当初から高校1年生はフランス語を第二外国語として必修で学んでいる。高2、高3は選択必修となるがほとんどの生徒が続けて3年間フランス語を学習する。そのため数年前から仏検は自校開催とし、できるだけ受験するよう指導している。さらに、近年モチベーションの高い生徒たちの DELF 受験も増加傾向にある。卒業生および在校生で2つの検定を経験した生徒たちのアンケートをもとに、仏検のもつ利点、問題点を参加者の皆さまと探っていきたい。また、来年4月から、本校はアサンプション国際高校に校名が変わり共学校としてスタートするため、仏検への取り組み方も新たに考えていくつもりである。ケベックの修道女会を母体としているカリタス女子中学・高等学校では、創立当初から英語とフランス語の2つの外国語教育を行っており、中学では第二外国語として全員が必修、高校では第一外国語、または第二外国語としてフランス語の勉強を続けていくことができるカリキュラムを持っている。それぞれの目的で学ぶ生徒たちが、フランス語学習の成果を実感するために仏検、DELF の検定試験を活用している。多くの生徒が受験しているため、ヒヤリングを行い、生徒たちの双方の試験に対する率直な感想や意見をご紹介します。今後のよりよい検定試験の方向性を参加者の皆さんとともに考えていきたい。

最後に、ディスカッションの時間では会場からの忌憚のないご意見を頂戴し、フランス語の検定のあり方について意見交換を行う予定である。